

ローマ：拘束の中で実現した念願の訪問

ローマは、パウロの願い、手紙、投獄をどう結び付けますか。

パウロはローマの信徒を訪ねる前に手紙を書き、さらに西へ進むことを望みました。使徒言行録でついにローマへ到着するとき、彼は囚人です。結末は拘束下の宣教を描きますが、裁判の判決もパウロの死も伝えていません。

到着前に届いた手紙

ローマの信徒への手紙は、その信仰を伝え聞いていた信徒に宛てられています。パウロはユダヤ人と異邦人にとっての福音の意味を説明しつつ、相互の励ましとさらなる宣教への協力を求めます。挨拶は、本人が訪れた範囲より広い人々のつながりを示します。パウロは手紙に関わる教会すべてを設立したわけではなく、ローマのキリスト教を彼の到着から始まったものと想像してはいけません。

聖書の参照箇所: ローマの信徒への手紙 1章8～15節・ローマの信徒への手紙 15章14～33節・ローマの信徒への手紙 16章1～16節

出典: letters

人々を迎え続ける囚人

使徒言行録は、ローマに近づくパウロを信徒が迎えたこと、監視下の住まい、対話、続く教えを描きます。拘束は彼を制限しますが、証しを終わらせません。二年間を記して終わることは無罪判決の報告ではありません。その後の法廷の場面も殉教の記述也没有ありません。開かれたままの結末を、特定の後の旅程の証拠と混同してはいけません。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 28章11～31節

出典: acts

使徒言行録後の伝承と再構成

いくつかの獄中書簡は伝統的にローマに結び付けられますが、個々の執筆場所には議論があります。後代の記録はパウロの殉教をローマと結び付けます。本サイトはその証拠を使徒言行録とは分けて表示します。イスパニアへ行く希望はローマの信徒への手紙に明記されますが、実現はそこで語られません。こうした区別は信頼を強め、読者が見せかけの完全な伝記によらず、キリストについての書簡の証言を考える助けになります。

聖書の参照箇所: ローマの信徒への手紙 15章24～28節・フィリピの信徒への手紙 1章12～26節・テモテへの手紙二 4章6～18節

出典: letters, chronology, brown

出典

- [letters] Romans through Philemon; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/>
- [acts] Acts 7–28; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/ACT.htm>
- [chronology] Pauline Letters chronology: Acts, the letters, dated external anchors, and explicitly qualified reconstructions. <https://paulineletters.com/explore/timeline>
- [brown] Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997), chapters 20–21, “From Where and When?”, and chapter 31, “II Timothy and Possibilities about the Pastorals”.

独自に制作した本文と画像：CC BY 4.0。聖書本文と第三者の素材は対象外です。

Pauline Letters · CC BY 4.0 · <https://paulineletters.com/ja/explore/resources/rome>